



日本成人病（生活習慣病）学会
The Japan Society of Adult Diseases

Vol.12 (1) 2013 July

成人病（生活習慣病）*News Letter*

第 48 回日本成人病(生活習慣病)学会 開催に向けて



この度、第 48 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会を 2014 年 1 月 11 日（土）～12 日（日）の 2 日間、都市センターホテルにおきまして開催させていただくこととなりました。

成人病とは、主としてがんなどの悪性腫瘍、心臓病、脳卒中など現在日本人の三大死因として挙げられている疾病と深く関わりがあり、40～60 歳位の働き盛りに多い疾患とされており、そして、現代の医学では、長年の生活習慣と深く関係しているといわれています。特に近年わが国は、少子化高齢化がますます進み社会情勢もめまぐるしく変化しており、高齢化に伴う医療、保健、福祉のあり方には諸問題が山積みしております。

本学会ではメインテーマを「**高齢化社会における生活習慣病の予防と治療—生活習慣と食生活の改革**」としており、高齢化社会を取り巻く医療、特に消化器内科、神経内科、循環器内科、糖尿病内科、腎高血圧内科、脳神経外科など幅広い分野にたずさわる専門科が一同に会して討論していく予定です。

特別講演では国立がん研究センター中央病院 病院長 荒井保明先生による「高齢者科とがん医療」についてのご講演、教育講演では龍口知子先生（予定）による「タニタ食堂に学ぶヘルシーライフ」についてご講演いただく企画を予定しております。その他、Meet the Expert、プレナリーレクチャー、シンポジウムと併せ、数多くの一般演題の発表を予定し

ており、生活習慣病における最新の知識や技術に関する情報が得られると同時に、実践的な医療を行っていくうえで今日の生活習慣病の予防と治療、さらに生活習慣と食生活の改善に不可欠な内容になるものと考えております。

最後になりますが、多くの皆さまのご参加を心からお待ちすると同時に、本学術集会が成人病（生活習慣病）医療の発展の一助になりことを願っております。

第 48 回日本成人病（生活習慣病）学会
会 長 田尻 久雄

（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）

今号の主な内容

- ◇ 第 48 回学会会長挨拶 「第 48 回学会開催に向けて」
- ◇ 第 48 回学会開催のご案内・プログラム概要
- ◇ 第 47 回学会を終えて
- ◇ 第 47 回学会一般演題会長賞受賞者発表
- ◇ 寄稿文：第 47 回学会会長賞を受賞して
- ◇ コラム
- ◇ 新シリーズ：Q&A
- ◇ 認定管理指導医申請について・認定管理指導医名簿
- ◇ 第 4 回教育集会開催案内
- ◇ 理事会・評議員会・総会報告
- ◇ 入会のおすすめ、その他、編集後記

第48回日本成人病（生活習慣病）学会開催のご案内

第48回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会は、メインテーマを“高齢社会における生活習慣病の予防と治療—生活習慣と食生活の改革—”とし、下記の企画を予定しております。基礎から臨床まで様々な分野にわたる幅広い一般演題を募集いたします。医師のみならず様々な職種の皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

会 期：2014（平成26年）年1月11日（土）～12日（日）
場 所：都市センターホテル
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1
TEL: 03（3265）8211 FAX: 03（3262）1705
<http://www.toshicenter.co.jp/>

会 長：田尻 久雄（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）
会場費：医師・研究者および医薬・器械業者の方 8,000 円
コメディカル・スタッフ 4,000 円

—学術講演主要プログラム—

◆ 理事長講演

岩本 安彦（日本成人病（生活習慣病）学会理事長）

◆ 会長講演

「肥満と消化器疾患」

田尻 久雄（東京慈恵会医科大学）

◆ 特別講演

「高齢化社会とがん医療」

荒井 保明（国立癌研究センター中央病院）

◆ プレナリーレクチャー

1. 「β細胞の生物学」

綿田 裕孝（順天堂大学）

2. 「高齢者脂質異常症のエビデンス」

池脇 克則（防衛医科大学校）

◆ 教育講演

1. 「生活習慣病の肝硬変 NAFLD・NASH の診断と治療」

橋本 悦子（東京女子医科大学）

2. 「タニタ食堂に学ぶヘルシーライフ」

龍口 知子（タニタ食堂）

◆ Meet the Expert

1. 「脳卒中の最新治療と将来展望」

村山 雄一（東京慈恵会医科大学）

2. 「脾腫瘍の up date」

木村 理（山形大学）

◆ シンポジウムⅠ

抗血小板療法・抗凝固療法—リスクとベネフィット—

「循環器科医の立場から 最新 TOPICS」

上妻 謙（帝京大学）

「神経内科医の立場から 最新 TOPICS」

井口 保之（東京慈恵会医科大学）

「消化器内科医の立場から ガイドラインを中心に」

藤城 光弘（東京大学）

「特別発言」

堀 正二（大阪府立成人病センター）

◆ シンポジウムⅡ

職域健診を活かした生活習慣病対策

（日本医師会認定産業医講習更新研修認定 予定）

1. 「就労環境（または過重労働）と生活習慣病」

土肥誠太郎（三井化学株式会社人事部健康管理室）

2. 「健診結果に基づく生活習慣病対策の実践」

1) 専属産業医（または大規模事業所）の取り組み

中村毅志夫（栗田工業株式会社本社医務室）

2) 嘱託産業医（または中小規模事業所）の取り組み

竹田 透（労働衛生コンサルタント事務所オークス）

3. 「健保組合との連携」

山本 雄士（株式会社ミナケア）

4. 「外部機関との連携—健診機関の立場から」

及川 孝光（こころとからだの元氣プラザ）

5. 総合討論

◆ ランチョンセミナー（4 演題予定）

◆ 一般演題

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会を終えて

順天堂大学大学院研究科腎臓内科学
富野康日記

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会を平成 25 年 1 月 12 日（土）・13 日（日）、都市センターホテルにおきまして開催致しました。天候にも恵まれ、参加者数は 631 名（医師・研究者および医薬・器械業者：458 名、メディカルスタッフ：133 名、その他ご招待など：40 名）にのぼり、盛会裡に終了することができました。これもひとえに皆様方のご指導とご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。

今回は、「生活習慣病の病態と治療—食と健康—」をメインテーマと致しましたが、現代食生活の変化は、まさに生活習慣病の背景そのものであります。そこで、生活習慣病について栄養学などの医療に携わる広い分野から検討するプログラムを企画することで、我が国の生活習慣病学の更なる発展に資する学会をめざしました。



会長招請講演では、三國清三氏（シェフ、ホテル・ドゥ・ミクニ）より、小児期の食育の重要性をレクチャーしていただきました。特に「味覚は 12 歳までに修得される」という三國氏のメッセージは、聴衆の心に強く届いておりました。特別講演では、アジアにおける腎臓病学のオピニオン・リーダーである台湾高雄医学大学 Chen HC 教授をお招きし、英語による慢性腎臓病（CKD）に関するレクチャーを日本語と英語の同時スライドのもとに拝聴しました。シンポジウムでは、食事や栄養管理について、現代の疫学、栄養指導の現場、術後の栄養管理、スポーツ医学などの多面的な観点から検討したり、臨床で遭遇する様々な「浮腫」の病態と治療を学びました。教育セミナーでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、MR（医療情報提供者）など様々な立場の方々の知識のアップデートを図る目的で、代表的な生活習慣病の診断と治療を各分野のスペシャリストからご講義をいただきました。また Meet the Expert では、NST の役割、冠動脈バイパス手術、胃癌などをテーマに知識のアップデートを図りました。プレナリーレクチャーでは、バイオリズムと生活習慣病および治療抵抗性末梢動脈疾患に対する血管再生治療について、最先端の研究成果を拝聴致しました。 広く演題募集しました一般演題では、

全国から 53 題の演題が集まり、活発な討論が繰り広げられました。この一般演題につきましては、各セッションの座長より優秀演題を選出していただき、表彰状を送らせていただきました。 今回の市民公開講座は、「生活習慣病について学ぼう」をテーマとし、1 月 27 日（日）順天堂大学有山登記念館講堂において、第 23 回順天堂腎臓病・高血圧セミナーと共催の形で行いました。 岩本安彦理事長による Opening Remarks に続き、糖尿病、小児のメタボリック症候群、脂質異常症、CKD の 4 つの疾患について、患者さんやご家族の目線に合わせたわかりやすいご講義を拝聴しました。こちらも参加者は 230 名を超え、盛況でございました。

この度の学術集会運営に関しましては、行き届かぬこともあり、多々ご迷惑をおかけしたことは存じますが、大澤勲事務局長を始め当科教室員の熱意に免じ、何卒ご容赦の程お願い申し上げます。

略儀ながら書中をもちまして学術集会終了のご挨拶と御礼と致しますとともに、先生の益々のご健勝と更なるご活躍と、本学会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

特別講演 Chen HC 教授



会長講演



特別講演 Chen HC 教授

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会 一般演題【会長賞】

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会は 1 月 12(土), 13(日)に開催されました。

今回も一般演題の各セッションより一題を優秀演題として座長の先生に選出していただき、以下の 11 演題が会長賞として選定されました。皆様のご協力により有意義な討論ができ、盛会のうちに終えることが出来ましことを心より感謝いたします。

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会 事務局 大澤 勲

会 長 賞 受 賞 者

セッション名	演 題 名	演 者 / 所 属
健診・ドック1	睡眠呼吸障害は拡張期高血圧の独立した規定因子である	和泉 匡洋 公立学校共済組合近畿中央病院循環器内科
健診・ドック2	DUAL インピーダンス法による内臓脂肪面積測定の有効性と測定結果解釈の注意点について	福井 敏樹 NTT 西日本高松診療所予防医療センター
栄養	糖質制限食による死亡・心血管疾患リスクの検証:メタアナリシス	能登 洋 国際医療研究センター病院糖尿病・代謝・内分泌科
生活習慣	医科歯科連携で見られた歯周病と生活習慣病の関係	松尾 亮 京都府歯科医師会上京支部公衆衛生部
糖尿病1	メタ解析:成人においてどの時期の体重増加が 2 型糖尿病発症に大きく関わるか?	児玉 暁 水戸協同病院健康管理センター
糖尿病2	インスリンアナログ使用糖尿病患者の血中抗インスリン抗体出現頻度とその臨床的問題	島尻 佳典 島尻キンザー前クリニック
脂質異常	non HDL-C は CABG 後の二次予防患者において致死的心血管イベントの予測因子である	福島 理文 順天堂大学医学部循環器内科
循環器	高血圧患者における左室肥大様式と心機能との関連性 ―組織プラ法を用いた検討―	田端 強志 東邦大学医療センター佐倉病院臨床生理機能検査部
高血圧・腎臓	成人若年低体重者における無症候性蛋白尿の疫学的研究	宗雪 年孝 自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学 I
末梢循環	がん患者に発症した深部静脈血栓症に対するフォンダパリヌクスの効果	向井 幹夫 大阪府立成人病センター循環器内科
消化器	MRI による mFFE 法を用いた肝脂肪化および鉄含有量の定量的評価	福原 京子 順天堂大学医学部消化器内科

第 48 回日本成人病(生活習慣病)学会演題登録方法と登録期間

*演題登録は例年通りオンライン登録で行います。

*演題募集期間は、2013 年 7 月 16 日 (火) ～9 月 27 日 (金) の予定です。

寄稿文

第47回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

NTT西日本高松診療所 予防医療センタ
福井 俊樹

一 昨年度の第45回学術集会では「職域における生活習慣病の診断と管理 ～ドック健診と医療機関の連携～」のテーマでのシンポジウムで「企業の社員健康管理における健診および事後指導と治療の連携」という内容で講演させていただきました。その際に日本成人病（生活習慣病）学会の活動を初めて体感させていただきました。

また昨年度の第46回学術集会は、東海大学神経内科教授の北川泰久先生が会長を務められ、「生活習慣病から脳を守る」のテーマの下で開催されました。私は、座長の仕事を任せて頂くと共に、「内臓脂肪 / 皮下脂肪面積比の経年変化および生活習慣病関連因子との関係の検討」のタイトルで一般演題発表させて頂き、会長賞を受賞させていただきました。その演題で、CTスキャンによる内臓脂肪面積測定の結果について、内臓脂肪面積/皮下脂肪面積比（V/S比）の年代別変化を中心に報告させていただきました。結果として、男女ともに歳をとるに従い次第にV/S比が高くなることを示すことができました。すなわち男女ともに加齢に伴い内臓脂肪が付きやすくなり、若いうちは太ったとしても皮下脂肪に蓄積することができるが、加齢に伴ってその貯蔵能力が減少していくのかもしれないことを報告しました。

今年度の第47回学術集会では、順天堂大学腎臓内科学教授の

富野康日己先生が会長を務められ、私は、「DUALインピーダンス法による内臓脂肪面積測定の有用性と測定結果解釈の注意点について」のタイトルで一般演題発表させて頂き、2年連続での会長賞を受賞させていただきました。発表内容は、初めての医療用内臓脂肪測定機器として承認されたDUALインピーダンス法による内臓脂肪測定装置であるDUALスキャンとCTスキャンによる内臓脂肪測定値の比較を中心として、放射線被ばくを考慮する必要のないDUALスキャンの有用性と同時に、測定値解釈における問題点についても言及させていただきました。

例年演題発表の多くが全国の著名な大学や大規模医療施設からのものがほとんどであるなかで、2年連続でこのような表彰も受けさせて頂いたことに非常に感謝しています。今回会長を務められた富野先生をはじめとする関係者の方々に深謝申し上げると共に、今後の研鑽の励みにしたいと思っております。

このような経緯を経て来年度には本学会員となって5年が経過することにもなりますので、本学会認定管理指導医への申請もしたいと考えております。また、微力ながら今後も本学会に関わっていければと思っています。

最後になりますが、本学会の今後のさらなる発展を祈念するとともに、今後ともご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

第47回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

東邦大学医療センター佐倉病院 臨床生理機能検査部
田端 強志

日 本人の食生活は、ここ十数年で大きく変化しました。食生活の欧米化や、交通手段の普及などによる運動不足、ライフスタイルの変化に伴って生活習慣病が増加しています。高齢化社会と少子化時代を迎え、生活習慣病の予防と治療は国民的課題です。平成25年1月12日(土)、13日(日)に都市センターにおきまして、第47回日本成人病（生活習慣病）学会が「生活習慣病の病態と治療—食と健康—」をメインテーマに開催されました。広い分野における医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師など様々な視点からの発表を伺えることも、本学会の魅力の一つであると思っております。

今回、私も循環器セッションにおいて「高血圧患者における左室肥大様式と心機能との関連性—組織ドプラ法を用いた検討—」という演題で発表させていただきました。現代の食生活や生活習慣の変化が血圧にも影響を与えており、高血圧患者は左室肥大を生じることで左室拡張機能障害などの心機能障害を来すことが知られています。近年、心エコー検査は画像解析技術の進歩によりストレインやスペクトルトラッキング法など新技術を用いた心機能評価が行われていますが、これらの方法はハイエンド機器や外付けの解析装置が必要です。今回使用した組織ドプラ法は拡張機能評価で使用している施設も多く、殆ど

の心エコー装置に搭載されています。簡単に短時間に計測できる利点を生かし、この方法で心機能の検討を行いました。左室肥大様式によって高血圧患者の左室収縮機能および拡張機能が低下しており、組織ドプラ法を用いることで潜在性の収縮機能障害を検出している可能性が示唆されました。データの入力から集計、統計処理など時間のかかる作業でしたが、このような結果が得られ、嬉しく思います。また、発表後の質疑応答では、貴重なご意見を多数頂き大変参考になりました。

私の所属している東邦大学医療センター佐倉病院の生理機能検査部では、睡眠時無呼吸検査を行っており、睡眠時無呼吸症候群の重症度分類と肝機能障害や睡眠呼吸障害と血圧との関係についての演題を興味深く拝聴しました。また、シンポジウムの「職域における生活習慣病の栄養管理」は、日頃お話を伺う機会の少ない分野でしたので、様々な刺激を受け新たな知識を得ることができました。

最後になりますが、会長賞（優秀演題）を賜りまして大変光栄に存じます。本研究を行うにあたり、ご指導いただいた先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後より一層研究に邁進してまいります。

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

島尻キンザー前クリニック
島尻 佳典

成

人病（生活習慣病）学会に参加したのは、大学院生の頃からだったと思います。御指導いただいた三家登喜夫先生からのお勧めでした。コンパクトにまとまった学会で、いつも勉強になります。もう何回参加したでしょうか。沖縄から参加する学会は、気候の変化をまさに肌で感じ、ほどよい緊張感となって気分を盛り上げてくれます。新年早々の会なので、年頭のご挨拶かたがた、お世話になった先生方にお会できるのを楽しみにしております。前日にはお酒を酌み交わしながら再会を祝し、当日学会参加後は、食事をとりながらディスカッションをする、というパターンが、いつの間にか我々門下生の習慣になりました。

今回の学会では、座長の先生からおほめの言葉をいただいて恐縮していましたが、さらに嬉しいことに優秀演題に選ばれました。研究アイデアを出していただいた先生や、データ収集とその解析に協力していただいた先生方のお蔭と感謝しております。

内容について簡単に説明いたしますと、抗インスリン抗体と C-ペプチド(CPR)との関連性についてです。インスリン使用糖尿病患者においては、抗インスリン抗体保有者の頻度がかなり多

く、測定方法を変更して測っても、全体の 2 割程が抗体を有していることが分かりました。また、抗体を持っている患者はインスリン使用量も多いこと、さらに、CPR が見かけ上高めで、内因性インスリン分泌能を過大に評価してしまう可能性があること、を見出しました。原因は、測定に際して CPR と交叉する反応があるため、本来の数字より高めにでることが考えられます。インスリンを注射している患者で、内因性インスリン分泌能を CPR で評価してもあまり問題なさそうなのに血糖コントロールがうまくいかない、あるいはインスリンの使用量が通常の患者よりやや多い、と思っている先生方は、一度抗インスリン抗体を測定してみると謎が解けるかも知れません。そして、それまで使用しているインスリンの量を増やすか、あるいはインスリンの種類を思い切って変更してみる、という選択肢も出てくると思います。または、グルカゴン負荷試験で CPR の差をみた方が良いのかもしれない。臨床で役立てていただければと思います。

生活習慣病は今後ますます重要な研究テーマになると思います。賞の受賞を励みに、これからもまた積極的にこの伝統ある学会に参加し、これまで以上に旧交を温めて行きたいと思っています。

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

京都府歯科医師会 上京支部 公衆衛生部
松尾 亮

第

47 回成人病学会にて発表の機会を与えていただきありがとうございました。また少ない歯科からの発表という理由からなのか生活習慣セッションの会長賞に選んでいただき、大変光栄に思っております。

さて、歯周病は糖尿病の第 6 番目の合併症とされ、近年では糖尿病治療においても重要なリスクファクターと言われておりますが、医科の診療現場で歯周病を診ることは病態が複雑で評価が多様な上、生化学的データのように数値化できないため、医科と歯科と病態イメージを共有することも難しく連携の妨げとなっています。そこでスクリーニング検査として簡単に測定でき、精度が高く、なおかつ数値化できる歯周病検査キットがあれば医科・歯科連携の共通言語に成りえると考えます。現在、簡易歯周病検査キットは数種類ありますが、多くはコスト面、安定性で問題があり、臨床応用には適さない物もあります。その中でわれわれは唾液検査より安定性の良い歯肉溝バイオマーカー検査（GCF 検査）に注目し、今回その有用性を病・診連携の中で検証いたしました。

GCF 検査の測定項目は、炎症マーカーとしてラクトフェリン(Lf)、出血マーカーとしてアンチトリプシン(AT)の 2 項目としました。

結果としては GCF-Lf が高いほど血糖値及び HbA1c 値は改善されにくい傾向がみられました。また LDL-C、HDL-C、TG の

変動では GCF-Lf が高いほど HDL-C が改善されにくく、TG が増加する傾向がみられ、動脈硬化の指標である L/H 比も改善されにくい傾向がみられました。この前向き研究で歯肉溝の炎症が亢進している者は、動脈硬化が改善されにくいことが示唆されました。対象症例数は少数でありましたが、歯周に炎症のある場合は糖尿病治療に対して血糖、脂質が改善しにくい傾向がみられました。歯周病を有する糖尿病患者は歯周病を有しない糖尿病患者に比べて、血糖が改善しにくいだけでなく、糖尿病合併症リスクが高まることが示唆されました。

以上の結果より、ある種の歯周病は血管病変(細小血管障害)としての一面を持っており、医科・歯科が連携して対応することが重要と思われます。

それゆえ私たちは働き盛り世代に対する歯科からのアプローチが生活習慣病予防に大きな効果をもたらすと考えます。

本学会への歯科からの発表は少ない様ですが、歯周病も生活習慣病と言われておりますので、さらなる医科・歯科連携のためにも歯科からの発表が増える事を切望致します。

最後になりますが、本学会の今後のさらなる発展を祈念するとともに、私たちも微力ながら医科・歯科の連携に関わっていければと思っています。今後ともご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学 I・城西大学 薬学部 医療栄養学科
宗雪 年孝



この度は、第 47 回日本成人病（生活習慣病）学会 会長賞に選考頂き誠に有り難うございました。厚く御礼を申し上げます。

私たちはかつて低体重が軽微な炎症を有することを報告しました（Kei Nakajima, et al. Obesity 17: 803-808, 2009）。このことから炎症と関連することが報告されている蛋白尿は肥満だけでなく低体重においても増加するとの仮説を立て、研究を開始しました。62,582 人の職域健康診断受診者における横断研究で日本人の BMI と蛋白尿の関連性を検討したところ理想 BMI 群と比較し低体重群と肥満群で蛋白尿を有する率が有意に増加する J カーブを示し、心血管危険因子で補正後も蛋白尿に対するオッズ比は低体重群と肥満群で理想 BMI 群に比較し有意に高値をとり、U カーブを日本人において生じることを見出し、日本人間ドック学会総会（2012 年 9 月）にて私たちの知る限り本邦で初めて報告しました。また、横断研究だけでは因果関係が明らかではないため、8 年間の縦断研究を行ない、BMI と蛋白尿の発症の関連性も低体重群と肥満群で有意に蛋白尿が多い J カーブを生じることを日本臨床内科医学会総会（2012 年 10 月）にて報告しました（抄録と対象数の変更がありました）。しかし、低体重は基礎疾患や低栄養状態を有する可能性が否定できないため、対象者を 20 歳以上 40 歳以下の若年者とし、しかも腎疾患や癌の既往だけでなく糖尿病、高血圧、脂質異常症で治療中の者を除いたより健康な対象者においてサブ解析（横断縦断研究）を行いました。その結果、横断研究、8 年間の縦断研究の両方で若年者はより強く低体重と蛋白尿が関連することが明らかとなり本学会（2013 年 1 月）にて報告させて頂きました。

本学会での発表の際に頂きました御意見と同様の御指摘を当時投稿中でした *Kidney International* の査読者からもいただき、真摯に検討し、蛋白尿の性質を調べるため縦断研究において再発性蛋白尿と非再発性蛋白尿の検討も行いました。肥満群の蛋白尿は再発性蛋白尿と非再発性蛋白尿の両方が理想 BMI 群に比し有意に多く発症するのに対し、低体重群の蛋白尿は非再発性蛋白尿のみが有意に多く発症しました。このため低体重と肥満の蛋白尿では発症機序、臨床的意義が異なる可能性が示唆されました。さらに同時に心血管危険因子だけでなく職種も含めて補正し求めた相対リスク比の結果から 8 年以上のより長期間の研究を行なえば、低体重の蛋白尿も肥満と同様に再発性蛋白尿と非再発性蛋白尿の両方が増加する可能性も考えられました。これらの研究の成果は原著論文として発表することに至りました（Muneyuki T et al. A community-based cross-sectional and longitudinal study uncovered asymptomatic proteinuria in Japanese adults with low body weight. *Kidney International* 2013 Jun 19. doi: 10.1038/ki.2013.222. advance online publication）。今回、本学会にて私の研究成果を発表する機会を与えていただきました事を非常に感謝しております。

最後になりましたが、研究計画の段階から統計解析、学会発表、論文作成に至るまでご指導いただきました城西大学 中島啓教授、および今回の研究を始めるきっかけを下さり、ご指導いただきました自治医科大学附属さいたま医療センター 百村伸一教授、研究に協力してくださいました公益財団法人埼玉県健康づくり事業団の皆様に深謝いたします。

第47回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

地方独立法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター 循環器内科
向井 幹夫

この度は、第47回日本成人病（生活習慣病）学会一般題優秀演題会長賞に選考いただき、誠にありがとうございました。演題名は、「がん患者に発症した深部静脈血栓症に対するフォンダパリヌクスの効果」でした。深部静脈血栓症といえば一般的にはいわゆるエコノミー症候群として広く知られている疾患であり、その頻度は決して少なくはありません。しかし、本演題では、がん患者に発症した深部静脈血栓症ならびに肺動脈塞栓症に関して検討いたしました。がん患者さんに認められる静脈血栓症は、Trousseau 症候群として知られており、Trousseau らが報告した婦人科領域のがんのみならず、消化器領域や呼吸器さらに泌尿器科領域と多くの種類のがん症例に出現することが知られています。がんの病期進展や転移症例に血栓形成の頻度も増すことから、がん患者が血栓症を合併する場合には、がんそのものが血栓増悪因子のひとつと考えられており、がんの周術期にも静脈血栓症を多く併発することが知られています。

その一方で、がんの化学療法の進歩に伴い従来とは異なった機序の血栓形成が増加しています。大阪府立成人病センターは西日本において有数のがんセンターとして知られており、常に新しいがん治療が行われており最新の抗がん剤が多く投与されています。なかでも、血管新生阻害薬に代表される分子標的薬は、血栓塞栓症などの心血管系副作用（心毒性）などの従来の

抗がん剤とは異なった病態が報告されています。これらの新しい病態、副作用に対応するために、循環器内科では「がん」と「循環器」の両者に関わる診療を行う「腫瘍循環器 oncocardiology」という新しい領域の診療を開始いたしました。腫瘍循環器外来では最近増加している循環器疾患を合併したがん症例や新しいがん治療で認められる心血管系副作用に対応した診療を行っています。今回の研究は、がん領域の科のみであれば治療に難渋していた血栓塞栓症例を循環器医（腫瘍循環器医）と一緒に診療におこない新しい抗凝固療法（Xa 因子阻害薬：フォンダパリヌクス）を施行した結果をまとめたものでした。

日本成人病（生活習慣病）学会は、成人病を広い範囲をカバーする学会であり、腫瘍循環器のような、がん領域、循環器領域と従来は離れていた領域に関して広い視野から研究を行う学会として適しているのではないかと思います。実際には、日本中のがんを専門に扱う施設には循環器科の医師の配置がほとんどなく、がんと循環器が重なった領域に関する医療はあまりなされておきませんが、今後我々のような施設で臨床的検討をおこなっていければと考えています。

稿を終わるに当たり、本学会のますますの発展を祈念いたしますとともに、私どもの施設が今後も微力ながらかわっていただければと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

シリーズ Q&A

Q：膝の痛みにサプリメントは効きますか？

A：外来で「右膝が痛い」と訴える患者にある医者が「お年ですからね。」と説明したところ、「左も同じ年なのに…」と切り返されたという笑話があります。変形性膝関節症は自覚症状を有する患者数が日本国内で約1000万人、潜在的な患者数（X線診断による患者数）で約3000万人と推定されています。つまり、現代では「犬も歩けば…」よりは、「高齢者も歩けば膝が痛む」のほうが当てはまるかもしれません。

巷にはそのような患者さんをターゲットに、サメの軟骨、コラーゲン、ヒアルロン酸、コンドロイチン、グルコサミンなど様々なサプリメントがメディアによりまことしやかに宣伝されています。内科の外来でも「これ飲めば膝が治るの？」みたいな質問を受ける機会も少なくないと思います。答えは「No!」です。

これらサプリメントの説明にはいずれも軟骨の成分（あるいは軟骨そのもの）を補えば軟骨が再生するみたいな理屈が「個人の感想」を基に書かれてあります。当然のごとくこれらを経口摂取すれば消化管で分解され、ほとんどが膝の軟骨までたど

り着かず排泄されてしまうでしょう。では、「大量にとったら？」という話も出ると思いますが、これもよくはわかっていません。コンドロイチンとグルコサミンには抗炎症作用を示す（痛みをとる）可能性があるという実験データもありますが、それならNSAIDsで充分でしょう。いずれにしても軟骨を再生する（治る）ということはありません。日本ではこれらのサプリメントの処方保険で認められておらず、ヒアルロン酸の膝及び肩関節内投与（注射）のみ認められています。しかし、個人差があることや全く効果がないというエビデンスもないことから、患者さんがせっかく個人の意思で高いお金を出して飲んでいてサプリメントを全否定するわけにもいかないというのが現状です。このような場合の患者さんへの回答としては、日本整形外科学会の見解

（<http://www.joa.or.jp/jp/public/about/supplement.html>）を参考にお話するのが無難と考えます。

筑波大学医学医療系整形外科 西野 衆文

平成25年度学会認定管理指導医申請のご案内

日本成人病（生活習慣病）学会では本学会の教育、啓発活動を具体化するために平成23年度より学会認定管理指導医制度が発足致しました。つきましては、平成25年度の申請を下記の通りご案内申し上げます。

以下に学会認定管理指導医制度規定の一部を抜粋いたしますので、申請時の参考にしてください。

1. 認定管理指導医の申請に必要な書類
 - 1) 認定管理指導医資格認定申請書
 - 2) 履歴書
 - 3) 医師免許証（写し）
 - 4) 本学会学術集会参加証（写し）
 - 5) 本学会教育集会参加証（写し）
 - 6) 業績目録（過去5年間における本学会の講演、座長などの学会抄録の写し。生活習慣病に関わる論文、他学会における講演などの記録の写し。）
 - 7) 本学会評議員あるいは認定管理指導医の推薦書
2. 認定管理指導医申請には以下に定める業績の5点以上が必要です。ただし、本学会学術集会あるいは教育集会に2回以上の出席が必須です。
 - 1) 本学会の学術集会出席（2点）：参加証の写し
 - 2) 本学会での発表（筆頭者1点、共同演者0.5点）：抄録号の写し
 - 3) 本学会の座長（1点）：抄録号の写し
 - 4) 本学会教育集会出席（2点）：教育集会受講票の写し
 - 5) 生活習慣病に関する論文発表（筆頭著者1点、共著者0.5点）：表紙の写し
 - 6) 他学会、研究会の成人病・生活習慣病に関する発表（0.5点）：抄録号の写し

※平成25年度申請の受付は平成25年1月16日より行い、平成25年10月1日をもって締め切る予定です。よろしくお願い申し上げます。なお、資格認定申請書は学会ホームページよりダウンロードできます（他の書式は自由）。

認定管理指導医名簿

認定番号	氏名	認定番号	氏名	認定番号	氏名
0001	清水 一寛	0019	小山 博	0037	向井 幹夫
0002	明石 隆吉	0020	堀越 哲	0038	富野康日己
0003	小林 滋	0021	中沢 和美	0039	野出 孝一
0004	古藤 文英	0022	中井 利紀	0040	勝盛 弘三
0005	五十嵐雅彦	0023	櫃本 孝志	0041	小井戸薫雄
0006	曾根 博仁	0024	富沢 巧治	0042	滝川 一
0007	熊谷 一秀	0025	横山 登	0043	後藤 尚
0008	大澤 勲	0026	大久保具明	0044	宗雪 年孝
0009	谷 樹昌	0027	柏井 昭良	0045	加藤 智弘
0010	木村 理	0028	平澤 邦彦	0046	河野 了
0011	野村 誠	0029	清水 浩二	0047	和泉 匡洋
0012	寺本 民生	0030	小谷英太郎	0048	渡邊 聡明
0013	新谷 周三	0031	三浦 正彦	0049	萩谷 政明
0014	藤瀬 清隆	0032	田尻 久雄	0050	佐藤 麻子
0015	濱田千江子	0033	銭谷 幹男	0051	池嶋 健一
0016	尾内 弘次	0034	穂苅 厚史	0052	北山 丈二
0017	馬原 孝彦	0035	石川 智久	0053	岩本 安彦
0018	丸山 哲弘	0036	平野 勉		

日本成人病（生活習慣病）学会 第4回教育集会開催のご案内

本学会では教育、啓発活動の一環として教育集会を開催しております。つきましては、第4回を下記の通り開催致します。今回は「生活環境と疾病」と題し、下記に記載いたしました先生方に講義をしていただきます。本年度も学会認定管理指導医取得の申請要件となりますので、多数のご参加をお待ちしております。

1. 日 時：平成25年（2013年）9月7日（土） 14:00～18:00
2. 会 場：千代田放送会館
〒102-0093 東京都千代田区千代田1-1 TEL: 03-3238-7401
3. 定 員：150名
4. 受 講 料：日本成人病(生活習慣病)学会 会員 3,000円 非会員 5,000円 コメディカル／研修医 1,000円
受講料は申し込みと同時に下記へお振込みください。 (会員・非会員共)
お振込み確認後登録完了通知を送付いたします。
みずほ銀行 銀座中央支店 (普) 1284683
口座名：第4回日本成人病生活習慣病学会教育集会
(ダイ4カイニホンセイジンビョウセイカツシュウカンビョウガツカイキョウイクシュウカイ)
5. 募集要項：官製ハガキ、またはE-mailにて申込み事項を記載し、日本成人病(生活習慣病)学会事務局までお申し込みください。
6. 申込締切：定員になり次第、先着順で締め切ります。
7. 受 講 証：受講修了者には日本成人病(生活習慣病)学会より受講証を発行いたします。
8. プログラム：「生活環境と疾病」
司 会：富野康日己 (順天堂大学医学部腎臓内科教授)
淡田 修久 (大阪府立成人病センター副院長)

1. 環境疫学からみた環境と健康	新田 裕史	(国立環境研究所 環境健康研究センター長)
2. 放射線被曝と健康障害	加賀美芳和	(昭和大学医学部 放射線治療学部門教授)
3. 心療内科からみた生活習慣病	端詰 勝敬	(東邦大学 心療内科准教授)
4. 食生活と生活習慣病	吉村吾志夫	(昭和大学藤が丘病院 腎臓内科教授)
5. 運動と生活習慣病	高橋 英孝	(東海大学医学部 健康管理学教授)
9. 申込み記載事項：E-mailの場合、件名は“教育集会応募”
第4回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会申込み
*氏名 (ふりがな)
*会員番号・非会員
*勤務先・所属
*勤務先住所 (郵便番号) 電話番号 FAX番号 E-mail
10. 応募先／受講に関するお問い合わせ先：
〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 (株)文栄社 内
E-mail: jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
TEL: 03-3814-8541 FAX: 03-3816-0415
日本成人病(生活習慣病)学会事務局
第4回教育集会 係

第4回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会
担 当：熊谷 一秀
(昭和大学附属豊洲病院外科 教授)

理事会・評議員会・総会報告

◎ 担当幹事より平成 24 年度学会運営状況・活動について報告がなされた。

◎ 担当幹事より平成 24 年度会計報告がなされ、監事より監査が適正であるとの報告がなされた。

◎ 担当幹事より平成 25 年度予算案の説明がなされた。

◎ 第 47 回会長より学術集会開催内容の報告と挨拶がなされた。

◆ テーマ：「生活習慣病の病態と治療―食と健康―」

◆ 市民公開講座テーマ：「生活習慣病について学ぼう」

[1 月 27 日（日）順天堂大学有山登記念館講堂にて開催]

◎ 各委員会より活動報告がなされた。

◇ 広報委員会

ニュースレターを年 3 回発行。（紙媒体：2 回・Web：1 回）

本年度 Vol.12-No.1 は 6 月発行予定であり、1 月 12 日に編集会議を開き、内容の検討をする。

新広報委員長に河野 了（筑波大学循環器内科）を推薦したい旨理事長より提案があり、承認された。

◇ ホームページ委員会

本学会ホームページの検索順位およびアクセス数の報告
ホームページの全面リニューアルのため、現在新ホームページを作成中である。

◇ 企画委員会

研究テーマ「生活習慣病患者における運動療法の有効性」を企画し、パイロットスタディとしてプログラムを作成し通常運動群と強化運動群で数例を実施中である。

◇ 認定管理指導医資格制度委員会

認定管理指導医の認定審査を行った。

第 3 回教育集会を昨年 9 月 8 日に開催した。

認定管理指導医の申請を 1 月 16 日より開始し、ホームページに「申請について」および「申請書」を掲載する。

本年度の申請の締切は 10 月 1 日とする。

◎ 再任理事の再任が理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 再任理事

淡田 修久	岩本 安彦	小俣 政男	北川 泰久
田尻 久雄	堀 正二	三浦総一郎	渡邊 聡明

◎ 再任評議員の再任が理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 再任評議員

明石 隆吉	淡田 修久	石原扶美武	和泉 匡洋
岩淵 省吾	岩本 安彦	馬原 孝彦	鬼倉俊一郎
小俣 政男	片本 哲郎	川邊 隆夫	北山 丈二
久代登志男	葛谷 信明	熊谷 一秀	小西 文雄
小林 義典	駒田 敏之	佐倉 宏	佐藤 麻子
重本 六男	杉原 健一	杉山幸比古	高橋 英孝
高山 忠利	田上 幹樹	田妻 進	土岐祐一郎
東丸 貴信	富沢 巧治	富野康日己	供田 文宏
中原 一彦	長尾 建	能澤 孝	野出 孝一
橋本 尚武	濱田千江子	日比 紀文	堀 正二
堀越 哲	前田 淳	三浦総一郎	三宅 良彦
森 俊幸	森 秀明	森本紳一郎	矢永 勝彦
山田 尚	横井 幸男	米井 泰治	吉山 直樹
渡辺 重行	渡辺 純夫	渡部 幸夫	

◎ 新評議員選出にあたり 5 名の下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 新評議員

池嶋 健一：順天堂大学大学院医学研究科 消化器内科学
宇治原典子：東京女子医科大学附属成人医学センター
大熊 壮尚：東海大学医学部附属八王子病院 神経内科
来栖 厚：順天堂大学医学部 腎臓内科学講座
蜂谷 修：山形大学医学部附属病院 第一外科

（アイウエオ順）

◎ 学会の活性化として一般向けのパンフレット（小冊子）の作成について経費・配布方法について再度説明がなされた。

◎ 次期会長・副会長選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 第 48 回日本成人病（生活習慣病）学会会長

田尻 久雄：東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科 教授

◆ 同 副会長

木村 理：山形大学医学部 第一外科 教授

事務局からのお願い

移動や引越し等が多くなる季節です。
勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、
必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意下さい。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約 1,200 名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されました。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は入会にはなりませんので、ご注意下さい。

一般会員年会費：5,000 円／評議員年会費：8,000 円
入会金：なし

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1
(編集部) 株式会社 文栄社 内
TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415
E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

編集後記

本年度より責任編集委員を担当することになりました河野了と申します。歴代の編集長のご指導のもと初刊の発行から編集に携わっている関係で、前編集長の青沼和隆教授にご推挙いただきました。

いにしへもかくやは人のまどひけむ

わがまだ知らぬしののめの道 (源氏物語 夕顔)

若輩者というにはいささか臺が立っておりますが、まだまだ未熟者ゆえ、なにとぞご指導のほどをお願い申し上げます。

(河野 了)

成人病（生活習慣病）ニュースレター
Vol.12-No.1 2013 年 7 月 1 日発行

発行人：岩本 安彦
委員会顧問：増田 善昭・山口 巖
責任編集委員：河野 了 (筑波大学)
編集委員：馬原 孝彦 (東京医科大学)
大澤 勲 (順天堂大学)
北川 泰久 (東海大学八王子病院)
北山 丈二 (東京大学)
佐藤 麻子 (東京女子医科大学)
徳岡健太郎 (東海大学八王子病院)
中川 敬一 (東京シーサイドクリニック)
穂苅 厚史 (東京慈恵会医科大学)
平井 一郎 (山形大学)
横山 登 (昭和大学豊洲病院)

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局
(株) 文栄社 までお問合せください。